

第1回米子市総合計画審議会会議録

○開催日時 令和元年7月8日（月）午後1時00分～

○開催場所 米子市立図書館2階 多目的研修

1 開会

2 市長あいさつ

（市長）

本日はたいへんお忙しいところお集まりをいただきまして誠にありがとうございます。米子市の総合計画に関する審議会でございますけれども、本来、来年の仕事になるんですけれども、1年前倒しでさせていただきます。

と言いますのが、総合計画とは別に、「米子がいな創生総合戦略」がございまして、こちらの改訂時期に当たっております。

ただこれは、それぞれ経過がございまして、総合計画はそもそも自治体で作るものとされているんですけれども、一方で総合戦略のほうは、いわゆる国の地方創生という政策が打ち出されてから、それにも対応していくため別途作ったものでございます。その内容に重複もございます。

そこでこの度「がいな創生総合戦略」の改訂の時期に合わせまして、この総合計画と一緒に改訂をさせていただくところでございます。その点につきましては、ご理解をいただければと思っております。

現在の総合計画は今、4年経ったところですが、4年経ちますと様々な社会情勢の変化がございまして、そうした変化については着実に変化を捉えて、この先の計画というものを打ち出していきたくと思っておりますが、その中身は本当に様々、多岐に渡っております。皆様方の知見を結集して、よりよいものを作ろうと思っておりますので、その点につきましてはお願いをしたいと思います。

それと、我々米子市の体制といたしましても、昨年度から各課で事業計画を持っておるわけですが、これを四半期でフォローする体制を取っております。つまり、基礎に仕立てた事業計画を四半期ごとに進捗を管理しながら、あるいは状況を管理しながら確実に履行されるように事業計画を管理していく、そのような体制を取っております。

この度、総合計画・総合戦略を立てるに当たりましては、この事業計画とのリンケージを確実にさせていただこうと思っております。つまり、今までは年度年度の事業計画はそれぞれフォローをし、そして総合計画のフォローはそれは別途ですというような重複作

業がありましたもんですから、今やっている年度ごとの事業計画のフォローは、内部的な話ではあるんですけど、この事業計画とこの度作らせていただきます総合計画については確実にリンクをさせるようにして、我々が四半期でやっている事業計画のフォローというものは、同時に総合計画のフォローでもあるように、そのような効率化を図らせていただいた上での体制を取らせていただきたいと思います。

そのことによりまして、皆様で審議いただく内容というものが、これから先、実効性を持って着実に履行されていくようにそのような体制を取らせていただくということをお知らせしておきたいと思えます。

それから、数値目標というのを当然作っていかないといけないんですけども、この総合計画の話をする前にですね、これまでの総合計画の総括というものを皆様に見ていただくとすると、総括の中には当然数値目標の進捗状況とか、どの程度達成したのか達成状況というものが皆様にはお示しされることと思えます。私もそれに事前にザっと目は通したんですけども、ひとつあるのはですね、この数値目標そもそも良かったのかという目標が中にはありました、正直なところ。

そうすると一生懸命フォローしたところでですね、当初に意図した方向性で事業の成果が果たして出ているのだろうか、とちょっと疑問を擁するところもございました。

これについてはですね、私のほうからは事務方に対しては、数値目標が馴染むものはもちろん数値目標を作るけれども、馴染まないものだったら、それは敢えて無理に数値目標を作るのではなくてですね、定性的な目標でもいいからそれをちゃんとフォローしろということをおっしゃいます。ですので、これまで大きな流れの中で数値目標自体は必要だという認識は、これは変わらないんですけど、その中身はよく吟味して本当に実効性のある、この数字を達成すればよりよいものになるんじゃないかというようなことを、我々でフォローしようということが大事です。

例えばですけど、少子化対策に関する人口の推移に対する我々の目標なんですけど、これは結果的には達成はしてますが、じゃあ我々の政策がどれだけ人口に効いたかって言われると正直分からないところです。頑張った結果が人口目標の達成にどれだけ関連があるかどうかわかりにくいですね。そうしますと、敢えてそこで目標を作ってそれを上回った下回ったと議論してもですね、言ってみればしょうがないんですね。やっぱりこれは、いろんな総和だと思いますんで、ひとつひとつの計画の中で達成していくべきではないか。

今のは例えばの話なんですけども、そのように数値目標については理解しておりますんで、皆様方でもですね、当初に設定する数値目標がそもそも必要なのか、こういう手法でいいのかとか、そうしたご意見をいただければですね、より実践的なものになるのではないかと思っております。

それと、最後になりますけれども、できた総合計画につきましては、できるだけわかりやすい形で市民のみなさんにお示しできるようにカテゴリーを分けたりとか、そういうような工夫をさせていただこうと思っておりますので、それについてもご意見をいただければ

ばというふうに思います。

米子市が所掌している職務といいますのは経済から福祉からあらゆる面に、多岐に渡っておりますので、どうしてもまとめた、冊子となった総合計画は総花的に見えてしまいます。しかしながらひとつひとつの事業計画というものは、やはりそれぞれの職場職場に於いて、我々のポジションに於いてですね、需要が起こって打ち出していつているものがございますので、正直私の立場だとどこに重点があり、どこに優劣がありってというのはないです。全部重要なんです。そういう考え方でおります。

しかしながらそれを市民の皆様へ提示したときには、どうしても総花的に見えて、何かとっつきにくくてわかりにくいものになってしまう、そのような性格がございます。ですので最終的にわかりやすい形で取りまとめようと思っておりますけれども、その際には、まだわかりにくいよ、とか、これを落としたらダメでしょう、とか、そのようなアドバイスを皆様からいただくと、よりよいものになるんじゃないかなと思っております。

以上、私のほうから挨拶に替えてですね、今回向かっていくべき総合政策の方針についてお話をさせていただきましたけれど、ぜひ皆様からも忌憚のないご意見をいただいて、よりよい総合計画を作り、そしてその先にはこの米子の街が住みやすく活気のある、そんな街にしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 委員紹介・米子市職員紹介

4 総合計画審議会制度の説明

5 会長・副会長の選出

6 会長・副会長あいさつ

(加藤会長)

皆様、失礼いたします。ただいま会長にご選出いただきまして、たいへん身の引き締まる思いでおります。授業で喋るときはもっと流暢なんですけど、緊張してちょっとたどたどしくなってしまうています。

学識経験ということでお選びいただいたんですが、私は米子高専に採用されたのが2006年度、平成18年です所以今年で14年目になりますでしょうか。

今日はちょっと米子のヨネギーズのファンでして、緑のシャツを着てきましたのであまり目立たないかもしれませんが。それで元々米子の出身ではなくて、広島県の三好市という中国山地の真ん中のほうにある都市の、都市といいますか山間地域の出身なんですけども、広島の方に帰りましたときには、米子のことを積極的にPRに努めております。米子高専では、地域政策とか社会科学の科目を担当しております、授業の中でも学生と

一緒に米子のことを考えたりしております。

2017年の2月になるんですけども、主権者教育の一環としてちょうど4月に市長選挙を控えておまして、伊木市長の前で恐縮ですけども、市長選挙が控えておったものですから、主権者教育の中でこの総合計画を使わせていただきました。学生が意外に身近な地域のことについて知らないことが多くて、私もそうなんですけど、この機会にこの米子の総合計画を教材として使わせていただいて、4つの目標が、“あした”とか“ふるさと”とか“ひと”とかそういうテーマなんですけども、それを候補者に見立てて、それに投票するって形にさせていただきました。そのときには米子市からお二人の職員に来ていただいて、総合計画、それから財政について説明していただきましてたいへんお世話になりました。結果としては“あした”というのが46人中24人、投票しておりますして活力のある米子を目指すということで学生たちが選んでおりました。その後も、市長選挙でも色々自分で考えて投票したのではないかと思います。

この度はこのような大役を仰せつかりまして緊張しておりますけれども、委員の皆様方、それから市の職員の皆様方あるいは市民の皆さんからの色んなご意見を結集して、いい計画を作っていきたいと思っています。どうぞお力添えをいただきたいと思っておりますし、逆に皆さんがそうやって助けていただけるので、私的には非常に心強く感じておりますのでどうぞよろしく願いいたします。ちょっとあいさつが長くなりましたけれど、どうぞよろしく願いいたします。

(古賀副会長)

鳥取大学の古賀といいます。本日はよろしく願いいたします。私もちょっと緊張しております。

私は鳥取に来たのが実は5年前でして、全く縁もゆかりもなく神奈川県鎌倉市の出身で、5年前にここに来たとき非常に感動しまして、酒が美味しい、お刺身が美味しい、住んでる人たちがみんな温かい態度で迎えてくれて、非常に心地よい気分がしました。私もそのときに鳥取に住もうと決めまして、実は鎌倉のほうに家があったんですけど、それを全部引き払って米子へ引っ越して来ました。そういう意味では米子愛に満ちております。

私は、米子観光大使を自認しておまして、外のあるいは首都圏の学校で何か講演するときには、米子の良さをアピールしております。ちょうど一昨日も徳島に行って参りまして、徳島の学会で私シンポジストとして発表したんですけど、そのときには必ずと言っていいほど使うスライドが2枚ほどありまして、米子をアピールして参りました。そんなわけで、米子のために何ができるか、県外地出身というところの視点もありつつ米子のことをなんとかしたいという思いでおります。

実は私、仕事のほうでも鳥大医学部付属病院で県内の、地域の企業さんと共同して商品化、医療系の商品の商品化の活動を行っております、結構その活動が活気を帯びているところです。で、ちょうどこの4月に米子市内で企業を立ち上げまして、県外地から2人

引っ張り込んで営業の活動をしているところです。そういったところで、この米子の発展に寄与するべくぜひ力を注ぎたいと思っておりますので、今回、加藤会長の下でぜひ私にできる限りのことをさせていただきたいと思っておりますので皆様のご意見をいただきながらこの米子の発展のために尽くしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

8 議題

(総合政策課長)

次に議事でございますが、米子市の審議会条例の規定によりまして会長が議長となることとされておりますので、これ以降の会議の進行は加藤会長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

なお、日程の都合上、市長、副市長、教育長は別用がございますのでここで失礼させていただきます。ご了承ください。

市長、副市長、教育長 退席・退出

8-1 会議の公開・非公開の決定

(加藤会長)

米子市では、米子市情報公開条例第7条に定める非公開情報に該当するものがなければ、審議会等の会議は原則として公開することとなっております。本日の会議では、非公開情報に該当するものはありませんので、特にご意見がなければ公開としたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なしと一同)

ありがとうございます。それでは公開としたいと思います。

(1) 次期米子市総合計画の策定基本方針について

(加藤会長)

それでは議題の(1)の説明のほうをお願いします。

(倉本室長)

室長の倉本と申します。手元にお配りしております資料4をご覧ください。次期総合戦略の策定基本方針についてということで、この度地方創生の総合戦略と総合計画を一体的に作ろうとするものでございます。

この計画の位置づけについてですが、総合計画のほうは市民自治基本条例24条に基づいて策定するものでございます。

2ページ目をご覧ください。これまで総合計画という名称を使っておりましたが、この度地方創生の関係と一体的に作るということで、まだ事務局案ですが、次の計画の名称を「米子市まちづくりビジョン」という名称にしたいと考えております。これにつきましては審

議会の皆様のご意見をいただきながら決定したいと思います。

続きまして、4計画の構成ということですが、この計画につきましては基本構想（ビジョン）部分と基本計画（プラン）部分で構成したいと考えております。

基本構想につきましては、市政運営の指針となるもので、長期的な視点で概ね10年間のまちづくりのこゝについて記述するものでございます。

基本計画につきましては、こちらのほうは中期的な視点で5年、5か年の計画を掲出していくものであります。

続きまして3ページをご覧ください。計画期間というのを記載しておりますが、基本構想の計画期間は令和2年度から令和11年度の10年間、基本計画の計画期間は令和2年度から6年度までの5年としております。

続きまして策定体制ということで、1番は審議機関ということでこの審議会の審議機関としております。また淀江地域にも審議会というのがございまして、そちらのほうにも同じく諮問答申を別の日程で予定しております。

続きまして市民参画。計画の策定に当たりましては、市民の方から広く意見を求めることが重要だと考えておりますので、市民の皆様からも広く意見をもらいながら策定していきたいと考えております。

策定スケジュールにつきましては、令和2年3月。今年度内ということを目途に策定していく予定でございます。よろしくお願ひいたします。説明は以上です。

（加藤会長）

ありがとうございました。米子市総合計画の策定基本方針についてのご説明だったんですが、今のご説明につきましてご質問やご意見がございましたら、どうぞご自由にお願ひいたします。（問）

先程の説明の中で計画の名称が「米子市まちづくりビジョン」ということで説明がありました。但し書きであるのはこれを変更する場合もあるということですので、第4次米子市総合計画ということになりますけれども、「まちづくりビジョン」というような名称にしたいというふうなので、これについては何かご意見ご質問ございますでしょうか。今の時点ではよろしいでしょうか。

では次の今後のスケジュール等につきまして、引き続き事務局のほうからご説明をお願ひいたします。

（2）今後のスケジュール等について

（倉本室長）

今後のスケジュールということでご説明させていただきます。お配りした資料5をご覧ください。

今日は7月8日で、2行目のスケジュールが本日ですが、この審議会に先立ちまして、市民の方にはまちづくりへの提案・意見募集ということで6月の末から8月一杯、2か月にかけ

で広くご意見を今お伺いしている状況でございます。

今後の予定としましては審議会を6~7回とたくさんお集まりいただいて、皆様お忙しいとは思いますがご協力をお願いしたいと思います。その他市民の方の意見を伺うパブリックコメントを10月から11月で30日間かけてご意見を伺いながら。並行して米子市長と地区ごとに説明会を市民の方に提示して、ご意見いただくという説明会を予定しております。

それと備考欄に補足ということで書いていますが、この度地方創生の総合戦略と総合計画を一体的に策定するというので、この審議会とは別に地方創生のほうの外部有識者会議という外部会議がありますが、内容によって合同開催というのもできないかということで検討しておりますのでその節にはよろしく願いいたします。以上でございます。

(加藤会長)

1月中旬までには提案を描いていくということで、約半年間というタイトな日程ではございますけれどもご協力をお願いしたいと思っております。

また市長が出席されての地区ごとの説明会あるいは地方創生有識者会議との合同開催なども予定されているということです。

私からひとつ。まちづくりへの提案・意見募集が始まったところだと思うんですが、これはどういう形で。ホームページとか公民館とか、こういった形で提案したらいいのかあるいは現在すでに公募はあるんでしょうか。

(遠藤担当課長補佐)

まちづくりへの提案・意見募集でございますが、米子市の市報でお知らせをすでにさせていただいております。また市のホームページのほうでもお知らせさせていただいております。提案の様式についてはホームページに載せております他、各地区の公民館やふれあいの里、淀江支所などにも置かせていただいております。

これは広く市民の皆様からご意見をいただくために設置しておりますので、特に年齢制限等もございませんので、またお知り合いの方にお声がけいただいて市民の声として届けていただけたらと思っております。

今のところ意見等はそこまで集まっておりませんが、期間が8月末までとしておりまして、まだ期間がございますので、意見をお願いしたいと思います。

(加藤会長)

ありがとうございます。前はまちづくりのワークショップが色々開催されていたように思いますが今回はそういったものは予定されていませぬので、こういったまちづくりへの提案・意見募集とかそういったところに積極的に市民の皆さんの声を頂戴したいと思っておりますので、委員の皆さんのほうでもPR等していただけたらと思っております。どうもご説明ありがとうございます。

そういたしますと議題の3番に移らせていただきます。第3次米子市総合計画の総括についてということで事務局のほうからご説明をお願いいたします。

(3) 第3次米子市総合計画の総括について

(八幡総合政策部長)

総合政策部長の八幡と申します。総括の話をさせていただく前に、皆様方にひとつお断りをしなければならないことがありまして、一応総括というふうに書いておりますけども、これはまだ計画年度の3年間が終わった途中の状況でございまして、正式に色々な総括ということにはなっておりません。

今後、色々皆様方のご意見等いただきながら最終的には総括というふうになっていくんですが、これから皆様方には総合計画の議論をさせていただく前に、米子市ってどんなことを実際にやっているのかなとか。この一応概要版の計画はお配りしましたけども、これがどのような状況になっているかという説明が必要だと考えましたので、暫定版ですが総括資料を作成しお配りさせていただいたということでございます。

ですから現在これが正式な総括ということではなくてですね、簡単に今の総合計画の途中の状況だということですね、そういう認識でお願いしたいというふうに思いますし、要点を今日はお話させていただきたいと思います。それでは説明については職員のほうからさせていただきたいと思います。

(遠藤担当課長補佐)

資料6の総括暫定版基本構想をご覧ください。なお事前に郵送させていただいております基本計画編のほうは資料用として参考としていただけたらと思います。

1ページの体系図のほうをご覧ください。第3次の米子市総合計画では、4つのまちづくりの目標とそれを推進するための取組方針、5つで構成しております。

まず「あしたがいきいき」は主に経済分野について記載しております。「ひとがいきいき」は主に福祉保健分野について載せております。「こころがいきいき」は、主に教育分野ですや人権分野について載せております。「ふるさとがいきいき」につきましては、都市整備、環境、防災分野について記載しております。最後になりますが「いきいきとしたまちづくり」については、これらの政策を推進するための行財政分野や広域連携分野について載せております。

これはあくまで第3次米子市総合計画のくくり方ですので、新たに作る次期総合計画のくくり方については、また審議会の委員さん方のご意見もいただきながら作っていきたいと思いますのでこの通りになるわけではございません。

続きまして2ページから4ページにつきましては、「いきいき」ごとの取り組みの成果や課題、平成28年度から現在に至るまでの主な取り組み等々について記載させていただいております。

5ページのほうに移りまして、上のほうに説明を載せさせていただいておりますが、第3次米子市総合計画のほうは平成28年から平成32年度まで5年間の計画期間で基本計画を策定しておりました。この度、次期総合戦略の策定に合わせまして、1年前倒しをして策

定することとしたため、計画期間の途中ではありますが、令和元年度、本年度に総括を行っております。取組の内容につきましては本年度までの見込みで作成をさせていただいておりますけれども、数値目標につきましては実績値という性質があることから、平成30年度までの実績値を基に平成28から30年までの3年間分の実績で評価をさせていただいております。

ランク付けがABCDとございますけれども、Aにつきましては平成32年度目標値を設定しておりましたが、32年度の目標をすでに達成したのになります。

続きましてBのほうは32年度の目標値に対して達成率が80%以上のもの、Cにつきましては32年度の目標値に対して80%未満のもの、Dにつきましては、基準となる数値を26、または27年度の数値を用いてますが、これを下回っているものです。

計画期間の途中ということもありまして、なかなか進捗が進んでないように見えるとは思いますが、計画3年目の途中というところで見ただけであればと思います。

7ページ以降につきましては、いきいきごとの数値目標の進捗状況と、数値目標の28年度以降の実績と経過を載せております。

「あしたがいきいき」につきましては経済分野ですが、成果といたしましては新規創業や工場の新増設、産学金連携、6次産業化について進捗が図られました。課題としては農林水産業の担い手や、中心市街地の数値目標がDのものが見られますけれども、これは累計ではなくて数値目標を単年度設定しているというところや、または達成がなかなか難しい状況があって数値の達成度が悪いものもございます。

「ひとがいきいき」につきましては、出産等にかかる検診や、保育園、放課後児童クラブの受入れ人数等の数値目標を設定しておりました。目標値達成にはまだ至っておりませんが、順調に進捗しているものと考えております。課題といたしましては各種検診、癌の検診ですとかあるいは地域での健康づくりといった数値目標において達成が難しい状況となっております。

続きまして「こころがいきいき」のほうですが、これは教育分野なんですけど、成果といたしましては小中学校の耐震化が完了いたしました。現在は猛暑の状況もあって空調設備の整備を順次進めさせていただいているところです。また米子城跡の保存活動についても取組を進めて参りました他、体育館、公民館等の整備もさせていただいております。課題としましては、子供会の加入の数値は硬直傾向のままというところと、審議会委員の女性の割合が、この総合計画の審議会でも女性の登用がなかなか難しかったということもあるんですけども、達成に至っていないような状況です。

「ふるさとがいきいき」につきましては、都市整備分野等ですが、米子駅南北連絡自由通路の整備を進めました他、安倍三柳線の整備などインフラの整備にも力を入れて参りました。水道の凍結等ありましたので給水方法の変更などに取り組みました他、中海の環境保全等に取り組みました。

「いきいきとしたまちづくり」のほうですが、こちらは行財政分野の運営ということで

数値目標のほうはすでに達成しているものも多いと思います。また単市ではなかなか解決が難しいものにつきまして国や県と連携を取って取り組み、周辺の市町村や、県境をまたいで中海・宍道湖・大山圏域との枠組みの中で、広域連携の充実強化に取り組んできたところです。課題としましては、数値目標で自治会関係の目標についてなかなか達成が難しいような状況になっております。

今回お示ししております 3 次総合計画の総括と合わせて、次回は各種データもお示したいと考えておまして、総括と合わせてデータを基に現状分析や課題の洗い出しをしていきたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。説明は以上です。

(加藤会長)

ありがとうございました。総括と言いましても先ほど説明がございましたように、32 年度が最終目標年度で、前 30 年度までの 3 年間の実績であるということです。これはこれで政策を進めていただくということではあるんですけど、皆さんにはそのように見ていただきたいということと、それから部長のほうで皆さんに総合計画を含めた市に対するご意見をいただければということとございましたので、ここまで聞いていただいたところで委員の皆さんのほうからご意見をいただければなと思うんですけど。いかがでしょうか。では吉岡委員に口火を切っていただきましょう。

(吉岡委員)

策定にあたって市民の意見を聞くということなんですけど、前回まではワークショップを開催されたということなんですけど、今回ワークショップをやめちゃったっていうのはどうしてなのかっていうことと、ワークショップで出た意見っていうのは、どこらへんにどういうふうに反映されているのかっていうのを伺いたいんですけど。

(加藤議長)

ご回答をお願いします。

(八幡総合政策部長)

まず作り方の関係でですね、前回は例えばワークショップなんですけども、1 年間をかけて、多分もう少し時間をかけていたと思います。ワークショップですとか、様々なアンケート等をさせていただいたという経過はありますが。実は今回は、基本的にはアンケートはいたしませんしワークショップもいたしません。それは何故かと申し上げますと、最近ですね、いわゆる EBPM というのがあります。つまりエビデンス、ベースド、ポリシー、メイキングという。つまり色々な声を聞くのはいいんですけど、まずはデータをきちんと根拠にした政策作りをしていきたいという、これが一番大きな理由です。

ですから実は総合計画で色々なアンケートとかの声、アンケートとかの結果とかそういうものについては、例えば介護ですと介護保険事業計画とか、子育てですと子ども・子育て支援事業計画とか、様々な計画で、そういう声というのはある程度運用はされていて、個別の計画のものを総合的にまとめるという形になっていきますので、それよりは特にデータを重視した計画をまず作っていききたいというのがひとつ。

それともうひとつは、ワークショップはどうしても参加人員に限られるということで、今回ですけども、先ほど事務局のほうで申し上げましたけども、市長が基本的には各中学校区を周って、そこで直接色々な声を聞かせていただきたいというところで今、いわゆる市民参画というところではそういう段取りをしておりますし。これも冒頭申し上げましたけれど、まず普通計画を作るときにはですね、ある程度計画を作ってからパブリックコメントを実施しますが、今回は、ただなかなか意見のほうは充分とはいきませんが、まず計画作る前の段階で色んなとにかく声を聞かせてくださいという広報をしていただいているところです。

そのところがですね、まだまだ初めてそういうようなやり方をするものですから、浸透しきれてないというきらいがありますので、ぜひそれは、先ほど担当がお話させていただきましたけれども、ぜひ皆さんにご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

それと後、ワークショップで、前回どの部分が計画に反映されたかということでございますけれども、4回ということで、第1回目は基本的には住み慣れた地域で健康とか保健機能、あと2回目が教育とかスポーツ、3回目がですね、景観・緑地整備、4回目が農林水産商工ということで、ここに書いてございます「いきいき」でですね、4つの「いきいき」があると思うんですけども、それごとにワークショップを開かせていただいて、基本的にこのワークショップで出た意見というのは、いわゆるこれも相対的になるかもしれませんが、そこで出た意見をベースにそういう「いきいき」というのを作らせていただいたということでございます。

(吉岡委員)

エビデンスに基づいて策定するっていうのは本当にその通りだと思うんですが、ワークショップをやめてしまうということは、市民にはエビデンスに基づいて考えられないって言うておられるのと同じことかなあと思うんですが。

私ごとになるんですけど、去年の秋から今年の春にかけて、松江で「自分ごと化会議 in 松江」という住民協議会を市民が無作為抽出手法を使って行いました。それがテーマは原発。とてもシビアなものだったんですが、各方面の専門家の方々のエビデンスを聞いて、松江市民がどのように在りたいか、自分がどのように生活したいかということを中心にしっかりと話し合うことができました。

市長が各地区を周られてお話をされるということは、とても住民の中に入って行くということで大切なことだとは思いますが、恐らくそこに来られる方は、また同じように高齢の男性が多い、そういうことが予想されます。私たちが行った選挙人名簿から無作為抽出で選ぶ方法でしたら、30代の方が大多数、女性が6割、若い方も20代から来ていただきました。なので、策定をする計画の段階で市民の意見を聞くということはとても素晴らしいと思いますので、ぜひ偏らない意見を集める手法というのをご検討いただけたらと思います。

(八幡総合政策部長)

まずちょっと誤解のないようにお願いしたいんですけども、決してエビデンスを重視するということは、市民の方がエビデンス云々と先ほど言われましたけど、それは全くございませんので、そこだけはちょっと誤解のないようにお願いしたいと思います。

それで市民参画の方向につきましては、今の時点ではそういうような方向を考えております。ただ、やっぱりこれは、例えば福祉のことでしたら福祉の関係の方々とか、様々な関係の方々に積極的なかたちでご意見を聞かせていただこうかなと思っております。ただまあ無作為とするのがいいのかどうかというにつきましては、これは少し協議していきたいと考えております。

(吉岡委員)

今、琴浦町で行われている施設仕分けも無作為抽出で行われていて私も傍聴したんですけど、その福祉の分野のことは福祉の方に聞くっていうことは、納税者の立場の意見っていうのはどうしても聞けなくなってしまう。利用者の立場とか、関わっている深く関わっている立場の方の意見しか聞けないので、ぜひそうじゃない納税者の立場としての意見を集めていただきたいと思います。

(八幡総合政策課長)

ありがとうございます。ご意見については拝聴させていただきました。最終的には途中途中になるんですけども、これはやっぱり最後は基本構想が、市議会の議決をいただかないといけないということになっています。市民参画の方法というのは様々あるとは思いますが、私どもといたしましては、先ほど説明をさせていただいたあの手法の他に、議会に対しては定期的にこのくらいの議論のペースですとかということで、やはり市民の代表というのは私どもは議会だというふうに考えておりますので、逐次議会のほうのご意見を伺いながら計画を作って参りたいというふうに考えております。以上です。

(加藤会長)

ありがとうございます。吉岡委員のほうからは、多様な市民の皆さん、そういった意見を結集していただきたいと、そういう手法についても検討して実施していただきたいということですので、よろしく願いいたします。その他の委員の皆さんいかがでしょうか。

(高野委員)

いま一見するとあるわけで。総括の中でも色んな数字が載ってきているわけですけども、そもそも非常に例えば1%2%とか、そのような目標数値がある。

例えば最終的に2.8%の目標値というような数字が

載っているわけですけど、これはまあ前の話ですけど、新たに論議を作るときに、やはりエビデンスを重視されるのであれば、この指標についても十分に吟味をされて、政策が本当に反映できてるのかできないのかっていうところをしっかりと押さえたものを指標として使っていただけたらと思うんですが。

(八幡総合政策部長)

ありがとうございます。市長のあいさつの中でも、いま高野委員さんが言われたところを指摘されまして、そういう数値目標を作るときに、それが本当に正しい数値目標なのか、適した数値目標なのかもぜひ皆さん方で客観的に見てくださというお話をさせていただいたと思います。

前は色々話を聞いたときに、あまりにも数値目標がなかったので、敢えて積極的に数値目標を審議会の中で設定しようという話になったと伺っています。やはりきちんとした数値目標をつけるのであれば本当にそれが適しているのかどうか、そのあたりを皆さん方に教えていただければというふうに考えております。

(加藤会長)

ありがとうございます。必ずしも数値になじまない定性的な目標も、ということを目頭、伊木市長もおっしゃってましたので、そのへんの設定の仕方も皆さんのほうでご提案いただけたらと思います。

私も、例えば米子市を通るバス路線数の数が目標になってるんですけども、で A になってるんですが、利用者数だとか満足度だとかそういったほうがいいなあと思います。皆さんのお気付きのところ色々ご提案いただければと思います。

それから市の色々なセクションでも、先ほど事業計画を立てておられるということですので、そのへんとのリンクもあると思いますので、今回は見通しというようなことも含めて計画を作っていきたいというふうに思っておりますのでよろしく願いいたします。

その他はいかがでしょうか。ぜひ皆さん一言ずつ言っていただけたらと思います。

(古賀副会長)

いま、この総合計画の総括ということで、ザっと見させていただいたわけですけども、まあこの中に確かに実績値の比較というところでは概ね順調なものとうでないものが仕分けされているわけなんですけど、実際この数値目標を、先ほど高野さんからもお話がありました通り、実質的に可能な数値だったのかですとか、あるいは施策は反映されている数字なのかという、そこら辺もあったかと思うんですけど、実質的にその例えば実績が上がってないところについて、次の計画にどのような形で反映させるとかっていうのはある意味質的な淘汰っていうのが必要になってくると思われませんか。

つまり本当にできないものであれば、やはりそれはこの計画の中から落とす必要があるかもしれませんし、場合によってはすごく伸びているものをもっと伸ばすという考え方もあるかと思えます。そういう意味では次の計画設定の際にこのあたりを、ビジョンを共有して方向性を考えていく必要があるんじゃないかな、ある意味大胆な決断。伊木市長のお考えに沿って大胆に進めていただくということが必要なのかなあというふうに思いました。

(総合政策部長)

まさに古賀副会長さんがおっしゃった通りでして、この総括で言いますと、進捗状況の具合で言いますと、ABCの項はいいんですけどDっていう数字が書いてあるのが、これはちょっと困ったものだなと思っています。ただ中身をじっくり見てみますと、これは本当

にこの目標でよかったのかなというものもあれば、なかなか現状、やはり社会情勢等によってなかなか進捗が上手くいかないと。その中でもこれはちょっと本当にやらなきゃならないだろうっていうものからですね、様々なものがあるんです。

それで今回の計画の策定に当たっては、冒頭市長より申し上げましたけれども現在米子市におきましては各部各課で重点的な課題というものを設定し、毎年これをローリングしていくような感じの仕事をさせていますが、あくまでもイメージですけども、総合計画は5年間の計画期間ですので、5年間の重点的な課題を挙げていってするようなかたちになっていると思います。

皆さん方には基本的に、いろいろな柱がございますけれども、その柱のところで本当にその柱でいいのかどうか、そのあたりで見ていただきながら、この会議以外も様々な方が出ていらっしゃる会議で基本的には何々策定委員会と申し上げましたら色んな立場の方から色んな意見をいただくための、ここが一番審議会の場面になりますので、ぜひ多様なご意見をどんどん積極的に言っていただければというふうに考えております。

(加藤会長)

ありがとうございます。まあ数値を見ますとひとり歩きするところもあり、それで一喜一憂するところもあるんですけど、目標を高く設定すると達成が難しくなるし、じゃあ達成しようとして低くすれば達成できるんですけどそれがいいかどうかというところもありますし、なかなか難しいところもあります。そもそもこの ABCD の付け方が5ページに書いてありますが、80%以上達成して B、80%以下で C ということですから結構厳しめの基準になさってるというところもありますので、今回の計画策定につきましては、米子市がどうあるべきなのかというふうなところから逆に考えていただいて策定していただいたり、先ほどもありましたように各セクションのほうの計画ともリンクしていただいて、設定していただくことになるかと思えますのと、今の柱の部分ですね、これにつきましては今の計画では4つ挙がってましたけど、そこも皆さんの多様性も含めて色々な意見をいただきたいということですからご自由に言っていただいたらと思います。

(古賀副会長)

この計画設定を今後実際に進めていくにあたって、今回このような表を見させてもらってひとつ思うのは、計画っていうのは大きい計画から小さい計画までであると思うんですが、つまり大きい目標を先に立ててそこに至るまでにこれをするっていう小さな目標を立てる形式があるかと思えます。そういう意味ではこの中に関連する計画っていうのが多々あって、それが大枠として上手くいっているのか、大枠として進んでいないのかっていう中項目でしょうか、そういった形で全体としてこの方向性っていうのは正しく進んでいるのかっていうのを総括できるような表の作成あるいは計画設定というのをしていただくのがいいんじゃないかなあというふうに思いますが、いかがでしょうか。

(総合政策部長)

ありがとうございます。表の作成っていうのは今後の話ということで受け止めさせても

らってよろしいでしょうか。副会長さんがおっしゃる通りでして、最終的には市民の方によくわかるものを作りたいっていうのを目標としておりまして、わかりやすい計画策定を心掛けたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

(加藤会長)

目標の立て方も体系的になっていくとわかりやすいということだと思います。ありがとうございました。その他にご意見あるでしょうか。

(佐貫委員)

今回いわゆるまちづくりの総合計画策定ということなんですが、基本的なまちづくりの考え方ですね、過去は郊外郊外ということでまちづくりを進めてこられた。その結果が、いわゆる社会情勢は変わりますねということで、コンパクトシティ化、市の中心地にいろんな機能を集めましょうという。それ以降は市町村合併があって淀江も一緒になりました。今後市としてはいわゆる従来のコンパクトシティ化を図っていくのか、あるいはまだまだ郊外のほうで重点的な施設を含めて広がりを作っていくのか基本的な方向性を、もし分かれば教えてください。

(八幡総合政策部長)

いまのお話は都市計画に係るお話だと思います。総合計画の中でも当然都市計画の分野は記載していくわけですが、結論から申しますと、コンパクトシティを目指すのか、さらに郊外に向かっていくのかということに関しましては、実は先日、米子市の都市計画のマスタープランというのを作成いたしました。その中に明確にコンパクト&ネットワークということで米子市は、元々米子市はコンパクトな街なんですけども、引き続きコンパクトな街にしていくという大方針を掲げたところでございます。そのコンパクト化に基づいて、今後中心市街地の活性化ですとかそういうようないわゆる密度の経済性を高めるような政策というのを本市としては総合計画の中に位置付ける必要があるのかなあというふうに考えています。

(加藤会長)

今の説明でよろしいでしょうか。都市計画のほうでコンパクト化の方向が出てくるということですから、整合性を図るということでコンパクト化の流れだということですね。その他の皆さんいかがでしょうか。

秋藤様、今回のご説明について何かご意見ございましたらお願いいたします。

(秋藤委員)

私の立場から話をさせていただくとすると、「ひとがいきいき」というところと「こころがいきいき」という分野かなあといま見させてもらっているところです。いまのところの部分で、学校の耐震化及び空調の設備というところで進展が見られたというふうに書かれていますけれども、空調に関しては実は結構前から連合会としても要望させていただいておりまして、去年、残念ながら熱中症で死亡された方がおられたということで、国の政策と相まって進んだと認識しています。ですからこれはぜひ米子市発信のようなかたちでこ

のビジョンを活かされるような形が好ましいかなというふうに感じていたところでしたので、ちょっと場が違うかもしれませんが意見として出させていただきたいと思います。

(松下教育委員会事務局長)

教育委員会事務局長の松下でございます。いま秋藤委員からご意見をいただきましてありがとうございます。耐震化につきましては、資料にもございますように構造体の耐震化が100%終わりました、非構造体の耐震化を順次実施している状況でございます。

それと空調設備ですが、これは国の方針が出る前の今年の9月の議会になりますが、市長が3年間で整備するという方針を出した経緯がございます。その後に、国のほうが補助金の設定ですとかそういうことをされて、追い風になったというのは間違いはないんですけども、米子市としては、子供のことを考えて早期に決断をしたというふうに考えております。整備につきましては今年度やっておりますので引き続き、1日も早く全校に付けられるように今も鋭意やっているところですのでご説明させていただきます。

(加藤会長)

ありがとうございます。それでは恐縮ですが伊坂委員お願いいたします。

(伊坂委員)

私実は前回の総合計画の策定時にもこの会に参加しておりまして、前回は目標の設定がなくて、今あるものについては目標の数値を定めて市で進められていると思うんですけど、いわゆる今の議論の中でそもそも設定している目標の数値がおかしいんじゃないかという意見もありましたけれども、我々としてはこの3年間で市として色々な取り組みをして、結果目標に届いていないか特に何にもしてないけど目標を達成しているとか、後はどれだけ頑張っても達成できていないとか色々あると思いますんで、ぜひ次の我々が審議する計画についてはそのへんの3年間を振り返って作りたいと。先ほども言われた通り柱となるテーマが本当に正しいかどうかというのを我々は見えていかないといけないかなと思います。

それと最後、市民にわかりやすいこの計画を作らないといけないんですけど、実際じゃあこれを見られた市民が何人いらっしゃるかというところが非常に気になるところでして。この冊子自体は見られてないかもしれませんが、我々が作る計画を少しでも多くの市民の方にわかっただけのような取り組みを市のほうにお願いしたいと思います。

(八幡総合政策部長)

ご指摘ありがとうございます。それで大体3年間でどれだけやっってるかっていうのはこれに書いてありまして、結構読むの大変なんですけども、ひとつぜひお願いしたいというふうに思います。

それから計画がどれだけ浸透しているだろうかというご指摘が、まさにその通りのご指摘でございます。ぜひ市民の皆さんに愛着のあるような計画の通称とか名前でも考えていただければというふうに思ってます。

(加藤会長)

ありがとうございます。伊坂委員におかれましては皆生温泉副組合長でいらっしゃるんですけど、ここで皆生温泉の数値が出てきて目標、最初書いてあるんですけど、これについてはコメントとか特にございませつか。

(伊坂委員)

伊木市長になられてから非常に観光のほうにも力を入れておられますけど、残念ながらこの計画が始まった 2 年間、非常に自然災害が多くて、市のほうにも色々な努力をしていただいて我々も頑張ったんですけど、新聞報道にも出てる通りお客さんの数は減っております。今年はまだ新たな取組を皆生の海岸でやっておりますし、またその次の計画に向けて海遊リゾート構想というのでも進んでおりますので、これから益々発展するんじゃないかということをお期待しております。

(加藤会長)

ありがとうございます。そうしますと桂藤委員お願いいたします。

(桂藤委員)

私も前回の計画を見ながらなんですけども。全体見させていただいて、やはり IT 分野がすごく低いなと思ひました。

私はデジタルハリウッドでデザイナーの育成をしているんですけど、主に女性が復職をするときに、私たちのような IT のスキルを身に着けて次の復職に備えたいという方であったり、特に今増えてきているのが 20 代前半の方で、働きたい場所がないので家で働きたいという問い合わせが来るんですけど、そういったときにどこに相談していいかわからないし、IT 系のことってどこに聞けばいいんですかっていうことで割と困ってしまっているのが米子市の特徴かなと思ひています。

ちなみに私のところに通われる方は結構松江市であったりとか鳥取市の方が来られたりするんですね。米子市の人はこのことすら、あるって知らなかったし家で仕事ができると思ひていなかったとか、結構個人的な活動で IT 勉強会とかをしている人もいるんですけど、そういった人たちが活動をしていてもどこに行ったら人を集めれるのかだったり、米子市の人たちってこういう関係をあまり気にされないんですかねっていうことを言われていたりとかするんですけど、それこそ I ターン U ターンの方たちっていうのは県外でそういった勉強会であったりとか IT を活用した地域活性にすごく力を入れていられるので、そういった部分で言うとお弱いのかなあと思ひて、いま色々ネットでも探してみたんですけど、結構そういうの指導されている方って米子市にもいらっしゃるんですけど、割と市と連携をされているのか、されていないのかっていうのが総合計画には載っていないだけなのかっていうのがちょっとわかりにくかったんですけども。いま見たところでは関わっているのって高松市くらいで、「IT とデータが実現する未来のまちづくり」っていう資料を出されていたりとか、コードフォージヤパンという形で活動されていたりとかするんですけど、先ほど伊坂さんのほうから言われていた“観光に力を入れている”って言ったときにも、やはり市民の方たちが IT に弱いつていうのって翻訳にしてもそうですし、県外に向かつて

発信する力が米子市民ってすごく弱いなっていうのがあったので、そういったのを市が例えばテーブルのリテラシーを上げていくような活動だったりとか、本当に学校の教育からそういった Web の知識を身に着けること、危ないから使わないではなくて何が危ないかをちゃんと知っておくことっていうのもこういう計画に入れていただけるとすごくいいのかなあというふうに思いましたのでちょっとご意見させていただきました。

(加藤会長)

ありがとうございました。桂藤委員にも引き続きご参加いただけるということですね。IT を取り巻く環境ってというのは非常にすさまじいスピードで発展していますので、今 IT 分野が弱いんじゃないかっていうご指摘をいただきました。その件についていかがでしょうか。

(八幡総合政策部長)

まさに今 Society5.0 の時代になったということで、これは総合計画というよりも、それこそ今年の 6 月に次期地方創生の総合戦略の基本方針というのが出て、今委員が言われたいわゆる IT 関連、今それこそ Society5.0 の時代になって、自治体で言いますと RPA とかロボティクスってところで、思い切り、破壊的技術っていう言い方でガラッと世の中変わりますよと。まさに IMG を使ってガラッと変わりますっていうことで、そこが全面的に出てくるので、多分今回の総合計画においてはおっしゃられることが全面的に載ってくると思います。それと後、情報の発信につきましては、これはまさに指摘の通りでして、私どもの市長に於いても、米子市って情報発信が非常に弱いよねっていうことで、去年こちらの方の部なんですけども、いわゆる情報発信ということでシティプロモーション推進室っていう組織を作りまして、積極的に情報発信をさせていただいているところでございます。

(桂藤委員)

その中でいいと思います。本当に IT 人材、IT に詳しい人材っていうのを確保していくっていうことも今の、これからの課題ではないかと思っておりますのでぜひご検討いただければなと思います。

(加藤会長)

ありがとうございます。また力添えを得ていただければなというふうに考えております。そうしますと先ほど佐貫委員、高野委員にはご発言いただきましたので田後委員お願いいたします。

(田後委員)

社会福祉協議会というのは米子市に 27 地区ございまして各地区に社会福祉協議会長さんがいらっしゃいます。その中で子ども会さんだとか老人会さんだとか交通安全委員会さんなどそういう各団体に助成金を出してその活動を手助けしていらっしゃいます。私ども米子市の社会福祉協議会も市役所のほうからも助成金をいただいておりますが、社会福祉協議

会は香典返しのご厚志とか赤い羽根共同募金のご厚志とかそういったことを財源として色々な活動をさせていただいているんですが、これがすさまじい勢いで低下しております。来年の予算を組むのにも端から赤字予算というような状況でして、まあこの傾向はずっと進んでいくんだろうと思っていますので、これに見合う法律的な活動をどういう具合にして持っていくか、それを米子市民のためにどういう具合に役立てていくかっていうのを今検討してますのでぜひ皆さんのご意見もお聞かせいただきたいという具合に思っております。

(八幡総合政策部長)

ありがとうございます。今、田後さんが言われたのはすなわち、今社会福祉協議会の切り口から言われたんですけど実は地域の課題でして、向かいに座ってらっしゃる高野自治会長ともお話をさせていただいたんですが、今いわゆる地域の自治会の組織率っていうのがご承知のように非常に低下してしまっていて、このままだとなかなか地域が持たないとそのくらいの危機感を持って私どもも色々な対応を考えておりましたが、やはり今回の国の地方創生に於いても、人口が少なくなる中でどうやって今の地域論っていうのを保つのが大きな課題となっておりますし、やはりそこで地域の力がなくなると現実ってどうなるんだってとここまで想像力をたくましく膨らませて、そういう危機感っていうのを発信していくと。それに対する対応についてもやはり今回の総合計画においてはきちんと書き込まなくてはいけないかなっていうつもりであります。それについてはぜひ地域の実態というのを本当にこの場でおっしゃっていただけたらなあと思っております。

(加藤会長)

よろしく申し上げます。今、市の福祉の計画も策定中でしたでしょうか。

(総合政策部長)

いわゆる社会福祉に関することについては地域福祉計画っていうのを去年度から今年度の2か年にかけて今つくっております。そこと本当に公民館等の自治体がどうマッチングをしていくのが課題だというふうに認識しているところでおるというところです。

(加藤会長)

わかりました。課題も明らかになってくるということですのでよろしくお願ひしたいと思ひます。それでは続きまして中村委員、お願ひしたいと思ひます。

(中村委員)

米子市の文化協議会から参りました中村と申します。文化協議会も高齢化が進んでおりまして、なかなか若い方が入ってこない。これはやはり若い方たちは自分たちで活動されている方がすごく多くて、つながりがなかなか持てないというのも、今協議会の中では重要なことと捉えています。

先ほどITとかが話でしたが、SNSなんかを見てますとものすごく活動してらっしゃる方はたくさん米子市にいらっしゃいます。ただ協議会のような堅い会に入ってみることがなかなかできない。今日もそうなんです、さっきワークショップっていうお

話が出ましたが、やはり若い方たちはワークショップ的な集まりにはなかなかいらっしゃる機会がない。なので、少しでいいので若い人たちも入れるような少シラフな会っていうのを間に作っていかれると、今度若い人たちを取り込む何かになるのではないかなって、いつもこういう会におじゃまさせていただくと感じるところでございます。

それから目標達成に関しましても、どんなことでも出てくるんですが、目標が高いと結局達成度が低くなってことになってますが、何が大事なのかっていうとその過程にあるっていうことを、もっと皆さんが理解して数字数字というような見方ではなくてプロセスにどういうことがあったのかっていうことが伝わるようなものがあると数字でバーッと書いてあるものに嫌悪感を示す方でも、少し興味を示すかなってものがあるかと思います。

(杉村経済部長)

経済部長の杉村でございます。貴重なご意見ありがとうございます。中村委員様がおっしゃられましたように、そういう堅苦しい会になかなか若い人が来ない。ただ文化であるとかスポーツってというのは、当然豊かな市民生活に直結するものでございますので、当然若い人もそういった文化とかスポーツを充分享受されていらっしゃる。米子市全体の文化振興とかスポーツ振興を今後市民の皆さんが健康で心豊かに過ごしていただく、そういったものをいかに普及させていくか、そういった話を役所からの視点ではなくて文化協議会さんのほうからのご意見を賜りたいと思いますし、例えば今回の総合計画とかで市民からの意見も出てくるんじゃないかというふうに思っております。、どういった形で若い世代にもこういった文化、スポーツの振興につながるような取り組みをできるか、色々と考えてみたいと思います。

(加藤会長)

ぜひよろしく願いいたします。そういたしますと藤吉委員お願いいたします。

(藤吉委員)

私からも2つ、質問と話をさせてください。

まず1つめが質問になるんですけども、サマリを見させていただいて一つ一つの指標の数値はあるんですけど、大きく5つの指針に対する全体のターゲット、例えば「あしたがいきいき」ですと31個の指標があるんですけどその31個の指標が結果としてどんな大きなゴールを達成してきたのかみたいな、大きなターゲットが数値としてあるのかっていうのをひとつお聞きしたいなと思いました。

もう一つは「あしたがいきいき」の中の雇用環境の整備といったところで、今やはり色々な企業さんとお話させていただいても人手不足っていうのが大変な中で、どういう施策が有効かなっていうのを私も考えているんですけど、今後の方向性として市役所さんとして、地元の企業さんと関係を構築して直接発信する方法っていうのを書かれていて、そこまで踏み込んで行政さんとしてされているっていうのはすごく驚いたってこともあるんですけども、やはりすごく求人の情報って飽和してきているので、どうやって情報を届けるのかとか、どうやってその情報を編集して求職者の方に振り向いてもらうのかってすごく大事

だなって思っています。例えば先ほど IT の活動なんかもあったんですけど、やっぱりクリエイターさんとか求職者の目線に立って情報を編集したり、そういったライティングをされたりするっていう、得意な方もいらっしゃるんですけどもう少し例えば外部のライターさんとか広報のプロの方に参画をいただいて、会社のサイトすらない会社さんもあるんで、何百万もかけてウェブサイトを整える必要はないと思うんですけどちょっと会社の内容が求職者の方にとって魅力的に映るように情報を書いたりだとか、そういったところに補助したりするっていうのも有効なんじゃないかなって、思いつきでもあるんですけど思ったところがあったのでお話をさせていただきました。以上です。

(八幡総合政策部長)

大きな目標についてですけど、どういう総括の仕方があるのかということなんですけど、この 3 次総合計画につきましては大きな視点についての数値目標というのは残念ながらありません。ただそれが本当にいいのかどうかということなんです。例えばわかりやすく申し上げますと冒頭市長が言いましたように例えば地方創生です。人口減少対策という大きな取組ですが、本当にこの施策が、直接人口減少に関係してくるのかどうかという難しさというものがあまして、それだったらまず確実に私どもができることをきちんと積み上げていこうっていうのがこの姿勢ですが、皆さんのお知恵を借りながら追求していけたらいいなという今の想いがあります。

(杉村経済部長)

経済部の杉村でございます。雇用等々ご指摘いただいたところでございまして、ご指摘のように非常に今人手不足ということで、それと加えて働きかた改革というそういうテーマも地元企業さんは突き付けられている状況になります。

色んな形で生産性向上であるとか色んな形で雇用というのは当然地元定着と言いますか、人口の維持につながっていくわけでございます。この雇用をいかに維持するか。いろんな手法があるかと思えます。

先ほどおっしゃられたように、IT で情報発信を、求人情報等々、あるいは企業の情報を発信していく。当然それもひとつの方法だと思いますが、非常にその雇用に関してはこれをやればっていうのが、決め手が非常に難しいところがございます。地元企業さんにとっても色んな企業がありまして、商業もあれば工業もある、農業もありますし。色んなその業種によって働く中身も違ってくる。それから雇用の条件とかも違ってくる。色んな面がありますので、このあたりはなかなか米子市単体で雇用の対策をやっていくっていうのは、雇用っていうのは市町村で境界があるわけじゃありませんので、やはり県とか国あるいは近隣市町村、中海・宍道湖・大山圏域の市町村等々連携して人口を維持していくためにこの雇用をいかにこの地域で守っていくか、あるいは増やしていくか。そういうふうな取り組みをしたいというふうに思っています。

それから例えば企業さんにそういう IT のほうを推進していくにしても、米子市だけがするんじゃなくて圏域あるいは県も一緒になってやっていく、そういうところが雇用とし

では必要かなと思っておりますし、今日は山根専務も来ていらっしゃいますが、当然商工団体の皆さんや中小企業団体の皆さんとも意見交換しながら。こういう非常に深いテーマでございますので、官民挙げてこのテーマには取り組んでいく必要があるかなというふうに思っております。

(加藤会長)

ありがとうございました。そうしますと堀尾委員お願いいたします。

(堀尾委員)

この総合計画を見させていただいて、大きなちゃんと目標があって基本の方向性がある指標があるというところで、先ほどもちょっと話に出ましたけれども指標を活性させるために色んな活動、政策等されていると思うんですが、それを達成するにあたってぶち当たった問題とかですね、それは想定していなかったところから新たに出た問題とか、ここに成果と課題ということで出ているんですが、新しく出た問題にこそ今後目標とすべきものが見えたりですね、そういうところもあるのかなあっていうところがあって。なんかそういうのがわかりやすいと次の方向性を示すのにいいのかなあというところと。

この総合計画を作られて、色んな政策をされていると思うんですが、その政策をされるときに自分が今活動している、行なっている政策が、どの目標のどの方向性のどの位置にあたるかっていうのを認識されながら政策を行われているのかなあという。せっかく作った総合計画、市を動かす計画だと思うんですけど、その自分ほどの位置を担っていてこれが「あしたがいきいき」につながっていくというのをその政策の中に意識しながら活動等されているのかというのが質問です。

私も政治経済団体でございます、あと業界のいろいろな団体とかあると思うんですが、そこと組んでの活動等もあると思うんですが、こういう分野はこういう団体と活動してますよっていうのが見えると、そこはこことここである程度組めるね、みたいなのが見えて面白いかなというようなことを思いました。

(八幡総合政策部長)

ありがとうございます。去年今の市長になってからですね、毎年まず部の目標、課の目標をきちんと立てようと。それが今の総合計画にきちり合っているかと言えば3年前に作った計画なのでなかなか合っていない。だからそのところもきちんと合わせていきましょうよということで、まさに堀尾委員さんがおっしゃったような計画にしていこうというような話を今日も市長のあいさつで触れていただいたというところでございます。ぜひそのような計画を作らせていただきたいと思っておりますし、今日皆さん方色々なご意見があると思うんです。基本的に計画に基づいて私どもが市役所の仕事を展開していくというような、そういう計画にしていきたいと考えておりますので、ぜひともご協力のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

(加藤会長)

後はですから新たに問題になったことであるとか、あるいは関連する団体などについて

も示したいということでしたのでご検討いただければと思います。それでは山根委員お願いいたします。

(山根委員)

山根でございます。実は私は会長になる前は県の職員をしておりましてですね、大体こういう計画には頭を悩まされた、悩ませてきたというのが本当でございます。

先ほど来色々ご議論ありましたけれど、この数値目標に対する、成果に対する数値化っていうのは本当に微妙で難しい問題がたくさんあります。国が地方創生で求めている補助金ですね。こんな事業やります、この事業に対して成果はこれくらいです。これは数値化できやすいんです。ところが、先ほど古賀副会長がおっしゃいましたけれど、大中小、細目の中に計画の段階を落としていきますとこの細目の補助金レベルでは数字はできます。じゃあ一番大事な構想部分、このへんを数値化できるかと言ったらなかなか難しいです。難しいんですが、主たるメルクマールみたいな手法もある。出生率とかですね。平たく言えば米子市の人口が減った増えたは元気を表す一番大きな指標でしょうし、例えば米子市に生まれ育った子どもが県外になんぼ就職したとか、ちいと多いじゃないかとか。ここまで非常にわかりやすい話です。ということはそういう数字を拾っても、じゃあ米子市全体の経済がどうだといっても全く見えない。そうすると市さんも色々税金持ってらっしゃるんで、税なんていうのが本当は一番わかりやすい指標かと思います。本当にことさら数字なんていうのはとにかく難しい話で、出して上がったからいいかといったらそうも喜べない部分もあったりですね、本当に数字の見方っていうのは難しい部分があると思いますが、やはり数字がないと、これも市民の皆さんにはわかりづらいということで、多分これほどまでの異論はつまり方法はどうするんだというところの異論だと思いますんで、私も月並みながら、これまでのところ常識的な感覚判断でしかないような気がしますんで、私なりのそのへんのこと意見を言わせていただいて、こうしようやということが言えたらなあなんていうふうに今思っておるところでございます。

ちなみにですね、この第3次総合プラン、野坂前市長さんのはじめの巻頭の部分で、以前ですね、経産省が“暮らしやすき日本一”。これが巻頭文に入っている。実はこういう本当は市民の幸せ度、幸福度、暮らしやすさ度、満足度、こういうちょっと違った指標でアンケートを取る。同じ項目で。ぶれたらダメですけどね。毎年同じ項目でやってくると、市民がおおよそ満足してるなとか、だんだんだんだん不満が溜まってるなとかっていうことがわかってくるんじゃないかなとか。ただこれも当時の国の経産省と東京大学でしたか、最新鋭の部分の方々が色々工夫なされた調査指標で、今どうなってるか僕もよう知りませんが、成程ようできた、やはり学者さんが考えられたことなので。例えばこういうようなことで米子市の暮らしやすさ度とか満足度とか生活充実度とか、そういうようなことの観点もあってもいいのかなあというふうに思った次第でございます。全くそれぐらいのことしかよう言いませんけども。以上でございます。

それから、この7ページですね。先ほどの数字の特徴で言いますと、7ページで「あした

がいきいき」とあります。で、経済、産業に関することが色々あります。中心市街地の店舗の出店数だとか、新規創業件数とか色々ありますけれど。これはさっき言った大中小、最小、どこら辺に入るかっていうのも関心がありますけども、中には6番目のビジネスマッチング商談会エントリー企業数なんて、こういうような横並びに入ってます。こういうのがここで横並びに入るとわかりづらいんですね。ビジネスマッチング企業エントリー数なんていうのはどこの企業マッチング商談会かわかりませんが、ほぼほぼ1事業に対するデータで、ここと中心市街地の店舗出店数とはほぼほぼ同じレベルじゃない。このへんが先ほど来の難しさだと思います。そのへんをどういうふう到大中小、最速の課題、施策を出して行ってそれに対して数値化できるものをして、トータルで成程、というようなものを作っていくというのが大事なあとというふうには思った次第でございます。皆さんも知恵を出してわかりやすいものにできたらいいなと思いますのでよろしくお願いします。(加藤会長)

ありがとうございました。山根委員は豊富な行政経験の後、商工会議所におられるということでお力添えのほうよろしくお願いたします。じゃあ最後、渡部委員よろしくお願いたします。

(渡部委員)

まず一つには市のほうに対しての質問がございます。

市のほうは先ほどの都市計画のほうではコンパクトシティについて行く方向だということをお聞きしたんですけど。まずこのコンパクトシティについて行く方向なんですけど、市を機能的な市にするのか、それとも魅力のあるまちづくりの方向に持っていくかっていう質問です。

2つ目は、桂藤委員が先ほど申し上げたように、私たちは、なかなかITによって県外に情報を発信することが難しいこと。ということをお自身も別のほうの分野で鳥取県のことをアピールしたことがあるんですよ。そのときに鳥取県と島根県をごちゃまぜにされて、鳥島県とか鳥取県とか言われた経験があるんですけどね。お自身が細かくあだよ、こうだよって言うてもなかなか皆さんはそういったことがわかっただけじゃなくて、やはり今の時代に対してはITっていうのがすごく貴重なことで、まずこちらのほうの米子市に対してはすごく魅力あることがたくさんあると思うんですよ。それらを県外に発信して、移住者の方たちに米子の街に住みたいなあとか、あるいは行きたいなあという観光巡りでもいいですから、とにかく人口を米子の街のほうに流れ込むゆうことをしていただいたら、もっともっと財政的にもあるいは人口的にも若干でもいい方向にいくんじゃないかなあと私、素朴な疑問ですけど思いました。以上です。

(加藤会長)

ありがとうございました。機能的なまちづくりか魅力的なまちづくりかということをお願いたします。

(八幡総合政策部長)

最初のまちづくりについて。コンパクトシティというお話をさせていただきましたが、これは基本的には機能的なまちづくりなんですけど、それは決して魅力的なまちづくりのところと相反するものではなくて、機能的でかつ魅力的なまちづくりを目指していきたいということでございます。

それと人口につきましては、それこそ今の地方創生の取り組みの中で色々させていたでいてるんですけど、結果米子市としては今全国様々な都市で、中には地方創生の発端となったんですけど消滅自治体とか色々言われておりますが、米子市に於きましては、一応人口減少が一番少ないカテゴリに入っている市だと。増えはしませんけども、一番そういう人口減少が少ないカテゴリの中の市であると、そういうことだけはこの場をもって報告させていただきたいと思えます。

いわゆるエビデンスの話ですけども、正直言って今までやったことがなかったんで、どれだけできるかっていうのは私もわかりませんが、やっぱりそこを突き詰めていかないと、なかなか説得力のある計画にはなんないだろうというところで、非常に事務方にも無理を言いながらとにかくやっぱりそこを極めようと。いわゆる総合計画をとにかくそういう仕事の仕方にしていくということは、これから米子市の仕事もそういうふうに変えていこうやというメッセージにもなってますんで、そのところは例えば色んなデータがあるよとか、そういうところで様々なご意見を頂戴できればというふうに思ってます。なかなか難しいと思いつつも、挑戦してみようかというのが正直なところでございます。

(加藤会長)

ありがとうございます。色々チャレンジングな取り組みもしていただきたいと思います。皆さん一緒にチャレンジしましょうということでしょうか。

それからITを使った県外への発信などは、先ほど桂藤議員がご意見されたことと一緒にだと思えますんで、こちらのほうもやっていかなければなというふうに思っております。どうもありがとうございます。

色々積極的に委員の皆さんのほうからも資料なども提示していただいて、直接こちらのほうにご意見等出していただけたらと思えます。

事務局のほうからはございますでしょうか。

(八幡総合政策部長)

今日色々ご意見をいただきましてありがとうございます。委員会の場だけではなく、様々な場面で色々気軽に事務局のほうにご意見をいただければというふうに思っておりますのでよろしくお願ひします。

(加藤会長)

ありがとうございます。委員の皆さん、ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。本日の審議会はこれで終了したいと思えます。本日委員の皆様からいただきました意見につきましては、事務局のほうで十分に検討していただき、次回の審議会でご報告していただき審議に付していただきたいと思います。本日はどうも長時間に渡りましてありがとうございます。

ございました。以上となります。